

ダルニー通信

61
2011
春号



タイ奨学金の締め切りは3月20日です。

- タイ東北地方の子どもたちの現状(P 2~4)
- 作家 山口由美さんのラオス訪問記(P 6)



一般財団法人
民際センター

タイ東北地方の貧困者数は約300万人



両親と暮らせない タイ奨学生の割合が増加

タイ事務局EDFによれば、奨学金申込書の記載から、両親の出稼ぎや蒸発等の理由で、両親と暮らせずに子どもだけで、または祖父母など親せきと暮らしている奨学生の割合が以下の通り増加していることがわかりました。祖父母が高齢や病気のため、子どもが生活を支えているケースも少なくありません。

年度	2007	2008	2009	2010
両親と暮らしていない奨学生の割合%	23.7%	29.8%	29.1%	31.1%

祖父母の治療費を捻出する中1の奨学生スニタ

両親からの仕送りは
3カ月に1回1,500円程度

中1のスニタ（写真上）は両親がバンコクに出稼ぎに出ているため、祖父母と暮らしていますが、祖父の健康はすぐれず、祖母は目が見えません。スニタは祖父母の面倒を見るため、3歳の妹を親せきの家に預けています。

スニタの両親はバンコクの布地加工工場で働い

ていますが、給料が低く、またバンコクでの生活費が高いため仕送りは3カ月に1回で、1回1,500円程度です。スニタは祖父母の治療費と妹の食費を捻出するため、週末や長期の休みに畑仕事をしています。将来、ホテルのマネジメントを勉強したいスニタにとって、歯を食いしばってでも学校に通う必要があります。ダルニー奨学金がスニタの必死の思いを支えています。

（タイ奨学金の支援者が減少したため、
昨年は奨学金申込者（小6）6,553人のうち
2,759人は受給できませんでした）

タイでは貧困ライン（収入が生活に必要な最低限の物を購入することができる最低限の収入水準にあることを表す統計上の指標）の数字は、年度と地域によって異なります。2009年度の貧困ライン以下の人口は530万人。そのうち東北地方に

は約300万人、過半数を超えます（下の囲み参照）。

ここ数年、日本から提供するタイ奨学金数は減少していますが、奨学金を必要とする子はまだまだ大勢います。ぜひタイ奨学金のご支援を宜しくお願いします。

2009年度のタイの貧困ライン（月収）は（1バーツ＝約3円）
バンコク6,405円、東北地方4,419円
貧困ライン以下の人数は、タイの総人口6,300万人のうち
タイ全土約530万人、うち東北地方約300万人

タイ奨学金の締め切りは

3月20日です

奨学金の種がこんなに大きく成長しました！

支援している期間に手紙のやりとりをし、卒業後も文通が続いている奨学生プライさんと、卒業でいったん連絡が途切れ、それから十数年経ったある日、突然、タイ事務局EDFに連絡がきた奨学生ソフィーダさんを紹介します。

(1) プライさんのその後

地元でゴム園を経営しつつ、経済的に貧しい子どもたちを自ら支援

中高6年間、ダルニー奨学金の支援を受けたプライさんは、それ以来、支援者だった内川さんとの連絡を欠かしていませんでした。つい最近も、プライさんから手紙が届きました。

「ダルニー通信」で紹介した9年前、プライさんはタイの経済危機ゆえ働きながら通っていた通信制の大学を諦め、地元ヤソートン県に戻って借金して水牛を飼ったり、耕運機を購入して近隣の仕事を請け負ったりして、自立に向けて家族と共に真剣に働いている様子が見えられました。

● ゴムの木で安定収入

彼女のこの姿勢は、9年経った今も変わりません。ゴムの木を購入して育て、安定した収入を得ているからです。タイではゴムの木の苗を育ててゴムの乳液を採取すると、よい収入になりますが、木が成長して乳液を採取するまで10-15年かかり、その間、別の仕事をして生活を立てなければなりません。プライさんはまず土地と400本のゴムの木の苗を購入し、現在はこれらの木から収入を得ています。2009年の月収は15,000～18,000バーツでした(1バーツ≒3円)。そしてお金を貯めて、新たに土地と2,000本の木を追加購入しました。しかし、これらの木から収入を得るには、もう5年待たなければなりません。

● 収入から奨学金を提供

さて、生活が安定すると、プライさんは地元ヤソートン県で経済的に貧しいため中学校に通うことが困難な生徒に奨学金を提供し始めました。スイス人の夫や夫の友人も協力し、現在6人の中学生に奨学金を提供しています。そして学校で生徒たちに教育の大切さについての話もしています。「多くのイサーン(タイ東北地方)の子どもたちは、都会に出稼ぎに出るのではなく、イサーンで暮らしたいと思っている」と考えているプライさんは、地元で生活していくために、しっかり勉強し、勤勉に働くことを生徒たちに訴えています。

支援を受けた自分が今度は支援をする——ゴムの木の苗のように、奨学金の支援と教育を養分に成長したプライさんは、次世代にその恩を返しています。



学校で講演をするプライさん



奨学金を提供するプライさんの夫

プライさんを支援した内川洋子さんのコメント

「ダルニー奨学金を提供したことでプライさんと出会い、プライさんとの交流を通して日本で活躍されている多くのドナーとも出会え、両方から支えられて支援を続けることが出来ました。恩恵を受けたのは私の方であると感謝し、タイやラオスの子ども達がせめて義務教育だけでも受けられるよう、可能な限りささやかながら支援を続けたいと思っています」

(2) ソフィーダさんのその後

コーンケン大学理学部の博士課程で勉強中

私はソフィーダ・スックプラサート、29歳です。コーンケン大学教育学部を卒業したあと、同大学大学院（生科学科理学部）を経て、現在は同大学院博士課程で学んでいます。

1994～96年にタイ東北地方スリン県のパノムドンラックウィタヤー学校で学んでいるときに、TAKEMOTO TAKASHIさんから奨学金の援助を受けました。当時、私の家庭は貧しく、毎回の食事を確保するのがやっとでしたが、借金をするほどではありませんでした。それで、受け取った奨学金で教科書や文房具などを買いました。ぼんやり覚えている限りですが、当時、TAKEMOTOさんに手紙を書いた記憶があります。そして手紙やはがきを受け取りました。

●コーンケン大学に進学、博士課程へ

高校は、中学から引き続いて同校の高等部に進学しました。学費以外は奨学金を受けることができたので、家計はとても助かりました。そして卒業後、コーンケン大学に合格しました。大学在学中はタイ学資ローン基金機構から奨学金（返済が必要）を受け、授業のないときには家庭教師のアルバイトをしていましたので、家計への負担はありませんでした。

そして現在、コーンケン大学院生科学科理学部の博士課程で学んでいます。まだ結婚はしていません。将来は、子どもの頃からの夢である、高等教育での教職に就きたいと考えています。

私の故郷スリン県には、学業は優秀でも家が貧しい子どもたちがたくさんいます。特に、タイとカンボジア国境辺りに住んでいる子どもたちは、都市部に住んでいる子どもたちよりも教育を受けるチャンスが少ない傾向にあります。ダルニー奨学金はこのような子どもたちに、素晴らしい教育の機会を与えてくださっていると思います。やる気に満ち溢れる子どもたちにとって、奨学金はまるで希望の光のようです。支援者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



中2の頃のソフィーダ



現在のソフィーダ

ソフィーダさんを支援した 武本崇さん(右)のコメント

「1994年からダルニー基金の支援を始めて、彼女が最初の子どもでした。1、2回の手紙しか交流が無かったのに、17年も前の名前を覚えていてくれたことが驚きです。彼女に一番申し訳ないことをしたなと思っていたのは、アンケートで高校進学を希望していながら、高校まで支援をしてあげられなかったことでした。大学院の博士課程まで進まれている非常に嬉しく思います。今後も支援を続けタイの子ども達の為に少しでもお役に立てたら良いなと考えています」



ラオカー校訪問



校舎の前で体操をする子どもたち

旅する作家・山口由美さんが ラオスの校舎建設事業で 完成した校舎を訪問

山口 由美

ビエンチャンからラオスを南北に走る幹線、国道13号線を南下する。車のハンドルを握るのは、ラオス事務所プロジェクト担当部長のジョイさん。目指すは、カムアン県ラオカー村にある小学校である。

10月のラオスは、雨季の終わり。途中、叩きつけるようなスコールもあった。だが、舗装された道路のドライブは快適で、予定より順調に、3時間余りでラオカー村に到着する。道路が整備されるまでは、ビエンチャンから数日かかる道のりだったとジョイさんが言う。さっきの雨が嘘のように、まぶしい太陽が照りつけていた。

校舎の前で、低学年の子供たちが整列している。聞けば、保健体育の授業なのだという。教室の中では、高学年の子供たちが、体操をしたり、黒板に描かれた人体の絵を使って、やはり保健体育の授業をしていた。

■校舎の中

校舎の中に入って、びっくりしたのは、外に比べて、明らかに涼しいことだった。ただ太陽が遮られているだけではない、風通しがいいのだろう。汗がすっと引いていく。

レンガ積み、天井の高い校舎の室内は、またなかなかいい。とても絵になる。アジアや南太平洋の国々で何度かこうした小学校を訪問したことがあるが、それらに比べて、建物それ自体のよさは、群を抜いているように思われた。

校舎は、電気がなくても大丈夫なように採光も考えられている。ラオスでは、電気のない村がほとんどだからだ。しかし、ラオカー村では、つい最近、電気が引かれたという。授業参観の後、村の婦人会長さんの家で昼食をご馳走になったが、真新しい電気釜や冷蔵庫が誇らしげにおいてあったのが印象的だった。経済成長のなかで、少しずつ生活のインフラも整いつつあるのだろう。

■小学生の姉妹

だが、豊かさの恩恵が、すべての人たちにいきわたっていないのが、村の現実でもある。校舎はあっても、それだけで勉強が続けられる訳ではない。それを物語るように、在籍する子供の数が、学年が上がるごとに少なくなる。ラオカー校でも、1年生が54人なのに対して、5年生は12人しかいなかった。

昼食後、奨学金を希望しているという子供の家を訪問した。5年生に在籍するお姉さんのチュムと4年生になる妹のチョーム。整った目鼻立ちの美人姉妹だ。でも、カメラを向けると、硬い表情になってしまう。

妹のチョームの顔をファインダーの中で見ながら、あっと気づく。教室で写真を撮っていたとき、たまたまアップで撮った子が彼女だった。勉強することがうれしくてたまらない、そんな表情が印象的だったのだ。

姉妹が無事に奨学金を得て、あの輝くような笑顔がいつまでも続くようにと祈りながら、私は帰途についた。

★山口さんの記事が雑誌「住む。」37号(2011年[春]3月21日発売)に掲載されます。



11歳のチョーム(左)は、先生になるのが夢だという(右は同級生)



山口由美さんのプロフィール

1962年神奈川県箱根町生まれ。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。海外旅行とホテルの業界誌紙のフリーランス記者を経て作家活動に入る。旅とホテルをテーマにノンフィクション、小説、紀行、エッセイ、評論など幅広い分野で執筆している。日本旅行作家協会会員。日本エコツーリズム協会会員。

職場の管理職の集まり「SX会」の本部役員が 書き損じハガキを寄贈

企業の取り組みを紹介：
トヨタ自動車株式会社

SX会では、一企業市民として、社会に貢献するのはもちろんですが、会員の豊かな心の醸成、視野の拡大を行うことで自己成長につなげることを目的とし毎年多くの社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。その中の一つとして「ダルニー奨学金」支援のための書き損じハガキ収集活動を行っています。

昨今、パソコンや携帯電話の普及が進み、はがきを書かなくなり、収集の枚数が少なくなりました。そこで、多くの会員にヒアリングを進めた中で、活動の展開が会員全員に広まっていない事や、ハガキは手元にあるが、どこに持って行けば良いのか、書き損じハガキはどのようなものをいうのか、という話があることを知り、私たちの活動の展開方法を見直す必要があると考えました。

活動の原点に立ち返り、まずは書き損じハガキはどのようなものかを詳しく説明したポスターを全職場に配布し、各職場で掲示しました。ポスターについては、年賀ハガキや暑中見舞いなど、ハガキを書くことが増えそうな時期を狙いポスターを随時更新しました。

また、社内で使用する封筒に書き損じハガキのPRを取り入れたり、社内メールの署名にも書き損じハガキのPRを入れたり、更には収集ポスターにダルニーホームページのアドレスを掲載するなどPRの方法を工夫しました。会の行事においてもダルニーコーナーとしてタイのこどもたちの情報を公開しました。また今までは会員だけの活動でしたが、会員以外の方へも広く呼びかけ、多くの協力を得た結果、『6666枚』の書き損じハガキを収集する事ができました。そしてこのようにして集めたハガキを、『手渡しで寄贈したい!』という強い思いから、今回初めてセンターを訪問させていただきました。

直接事務局の方とお会いし、タイやラオスの現状や民際センターの新たな取り組みについてお聞きしたことで改めて活動の意欲が増しました。現在、約8千人の会員ひとり一枚を目標に進めています。今後もPRに努め、書き損じハガキの収集活動を継続していこうと思います。



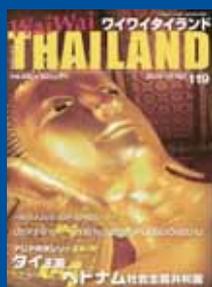
書き損じハガキ収集PR入り封筒



書き損じハガキ寄贈の様子

タイのことなら ワイワイタイランド!!

毎月10日発売
300円



月刊ワイワイタイランド

タイの政治事情から最新芸能ニュースまで新鮮情報が満載の月刊情報誌！
タイ語と日本語の2カ国語表記だからタイ語の勉強にもなります！

▶ <http://www.waiwaithailand.com>

株式会社ワイワイタイランドで、
できること。

- 店舗開業相談・運営サポート
- タイ関係のイベント企画・運営
- ホームページ制作
- 商品プロモーション・宣伝

株式会社ワイワイタイランド 雑誌の定期購読やタイ業界各種相談など、タイ人&日本人の経験豊富な専門スタッフが対応します。

お問合せ ▶ TEL 03-5358-7895 info@waiwaithailand.jp <http://www.waiwaithailand.jp>

あなたならではの 得意技大募集!

今回、皆さまの得意技を活かし、そのお力を借りて支援を拡げていくことにチャレンジすることにしました。皆さまの身近な範囲で、皆さまができること、そして楽しめるボランティアを始めていただこうというものです。是非ご協力ください。

★ あなたの得意技を活かしてみよう! ★ 例えば…

クッキーづくり 作ったクッキーを チャリティーイベント に提供できます	ピアノ ピアノをひいて チャリティーコンサート に参加できます	DM お客様に出すDMに 民際センターの紹介を 同梱できます	美容師 老人ホームで 散髪した謝礼金を 寄付できます
商店 チャリティー商品の その売上げの一部を寄付、 売上げもあがりませう	IT ブログやTwitterで 民際センターの活動を つぶやけます	仲間 仲間とチャリティー ティーパーティーを 開催できます	デザイナー 広報資料や イラスト作成などを 手伝えます
芸能人 友人に芸能人がいて、 その人に支援者、 広報マンになってもらう	パソコン 入力の速さに自信が あるので、 事務関係を手伝えます	* ボランティア大募集中 * 東京事務所にて、データ入力作業・ハガキヤインク カートリッジ仕分け作業などのお手伝いをして いただけるボランティアも募集しています。週に一度 程度、お手伝いいただけませんか? (担当: 栗口)	

思い立ったが吉日。今すぐご連絡を!!

得意技をお持ちの方、やりたいけれどやり方がわからない方、
お気軽に下記にご相談ください。

メールで

info@minsai.org

お電話で

03-5292-3260

同店は32年間大牟田市で営業を続けてきたフランス料理の老舗です。店主の宮村駿一さんはこの1年ほど闘病しながら1人で予約のみの営業を続けてきましたが、「ぜひ宮村の本物の味を受け継ぎたい」と後継者の名乗りをあげた新しい仲間、平島新さんと共に、この11月に通常の営業を再開したばかりです。

「32年間多くの方々を支えられて営業を続けてこられたことに感謝して、そのご恩返しの意味も込めて何か世の為人の為になるイベントをしよう」と話し合った二人は、農業を通じて交流のあった知人の吉田さんが10年程ダルニー奨学金のドナーを続けていることを知り、民際センターの呼びかけに賛同しクリスマスチャリティとして取り組むことにしました。知人のバイオリン奏者、坂本ななみさんら4名が営業の再開を喜び、店内でのバイオリン演奏会を申し出られた事に合わせて、22日にバイオリン演奏の夕べ、23日に特製カレーの販売を行いダルニー奨学金に寄付するというクリスマス企画が決定しました。

22日は10数名の友人を迎えすばらしいバイオリンの生演奏を聞きながらの食事会が催され、23日は店舗前にて

紅茶の無料サービスを行い、店内では通常料金1,000円の特製カレーを500円から提供し収益をダルニー奨学金に寄付するイベントが開催されました。



福岡県大牟田市

12月22日・23日両日

レストラン宮村の クリスマスチャリティイベント 60余名の来店で賑わう



収益金3万円をダルニー奨学金へ

この日準備された50食はご来店40数名、お持ち帰り10食ですべて完売し、経費を引いた3万円の収益金が民際センターに送金されました。

両氏は「今回のイベントを企画するうえではいろいろな事を考えさせられました。ご縁あってダルニー奨学金に寄付させていただきお役に立てたことは今後の私共の営業の励みになることと思います。これを機会にタイの奨学生とも交流を図りたいとも思っています。しかし今後はもっと身近なところにも職をなくし生活の基盤を無くした人たちがたくさんいらっしゃることに目を向け自分達にできることをやっていかなければいけないのではないかと考えています。」「そういう中で私たちはレストラン宮村の再出発と同時に、就農による生活基盤の確立が地域再生のキー

ワードではないかと考え、有機農業を柱とした事業に取り組みたいと考えているところです。」とこれからの抱負を語っておられます。



イベントを企画した宮村、平島両氏



夕暮れの店舗前、最後まで手伝ってくれた友人達といっしょに



X-mas チャリティも終えて

レストラン宮村 平島 新

チャリティにご協力下さった全ての皆様ありがとうございました。

今回は、準備や援助や来店など総勢約100名の方々のご支援でタイの中学生に3年分の学費を援助することができました。文通もできるということなので、その中学生に今回の寄付金のエピソードをお伝えしたいですし、近い将来このチャリティーでみなさんに召し上がっていただいたカレーライスをその子にも食べてもらいたいですね。どのように私達のお金が集まり活用されたかが分かることでお互いの理解がより深まるのではないのでしょうか。またチャリティーイベントを計画中に、オーナーから発せられた「では今の日本はどうだろう？駅のホームレスさんの数は増えているよ。女の人もある。私はそれが心配。」という指摘は私たちの心に強く残りました。なんとか今困っている人たちが自立生活できるような基盤を作らなければ…と思うのです。就農がそれを助けてくれると今強く思っています。食と農、微力ながらも頑張っていきたいと思えます。

レストラン宮村のホームページ ● <http://gankoittetsu.web.fc2.com/>

ブログ（食と大地とへんくつもん～レストラン宮村～） ● <http://aratar.blog111.fc2.com/>



民際センターは「音楽」と「メッセージ」と「笑顔」によりラオスの子どもたちの音楽教育を支援し、文化交流を広げる新しい形の国際協力プロジェクト「MERRY MUSIC in LAO」をスタートさせました。タッグを組むのは、アートディレクター、水谷孝次さんの「MERRY PROJECT」とつんく♂さんの会社「TNX」です。



ຢາກເປັນຕໍາຫຼວດ

◇500人以上の「笑顔」を撮影

11月23日～30日、同プロジェクトチームはラオスの3つの村を訪問し、プロジェクトを実施するための現地調査、日本国内でのプロモーション活動を実施するための素材集め、そして音楽のワークショップを開催しました。まず、「MERRY PROJECT」主宰の水谷さんは500人以上の子どもたちの笑顔の写真撮影。炎天下の中、朝8時から夕方5時頃までの3日間、ひたすら笑顔を求めて撮影し続けました（写真左）。

◇村で音楽のワークショップ

また、今回のキーワード「MERRY」にちなんで、子どもたちの楽しいことや将来の夢などをアンケートに取り、その後、子どもたちの音声も録音。今後、つんく♂さんが作った楽曲と水谷さんの撮影した笑顔の写真に子どもたちの「MERRY」なメッセージを載せたプロモーションビデオを作成し活用する予定です。次に「TNX」のスタッフ2名が中心となって2つの村で音楽のワークショップを開催しました。村の歓迎会で子どもたちが披露した歌は「ラオスを称賛する歌」と「男と女の掛け合いがテーマの相聞歌」でした！私たちは「きらきら星」の曲にラオス語のオリジナル歌詞をつけた曲を用意しましたが、100人以上の子どもたちが楽しく歌いました。



◇「歯磨きの歌」が子どもに受けた！

また、ただ歌うだけではなく、子どもたちに歯みがきの重要性を勉強してもらえるように歌詞の内容を「歯みがき歌」にし、毎日、学校で歌ってもらえるよう、先生方をお願いしてきました。特に印象的だったのは、教室に入りきらず窓の外からのぞいていた子どもたちが、ワークショップ終了後、校庭の片隅で歌詞カードを手にして「歯みがき歌」を歌っていたことです。最後に、ライオン株式会社様よりご提供いただいた歯ブラシセットを学校に寄付し、村を後にしました。



コラム 「民際昔ばなし」 (2)

理事長 秋尾 晃 正

エレベーターがない青山のアパートの最上階、その5階の一室が民際センターの事務所でした。フルタイムのスタッフがいない時代です。平成元年10月27日付朝日新聞に大きくダルニー奨学金の記事が掲載され、朝から問い合わせの電話が鳴りっぱなしでした。一人では何もできず、多くのボランティアの努力でこの山場を乗り越えました。一段落した翌年4月下旬に若い男性から電話がありました。「記事を読んだ時は大学4年生でした。アルバイトと仕送りの生活でした。社会人になったら、一人前に成った証として、何か社会貢献をしたかったです。今日、初任給を頂いたので振り返りました」と一気に喋って電話が切れました。公衆電話からのようでした。当時22歳だったとすると、その若者は現在45歳、そして、その奨学金を受けたタイの子どもは35歳になっているはずです。いつかこの2人が偶然にfacebookやskypeで対話するようなことがあればと空想しています。

●3回 ヴィンガーズ ファン感謝コンサート開催●

青春とはなんだ!



2011年1月22日、東京北区の滝野川会館にて、日本最高齢の合唱団ヴィンガーズのチャリティーコンサートが開催されました。今回は、青春とはなんだ!をテーマにセーラー服、学生服を着用した若者?たちによる、とても元気あるステージでした。昨年9月にH.I.S.主催のスタディツアーに参加した澤田さんと大岩さんがラオス民族衣装を着てのご挨拶。舞台は当然のように盛り上がりました。チャリティーの収益は、ダルニー奨学金に寄付いただいております。毎回20名若の子どもたちに提供されています。今回は6月に行われる予定ですので、皆さまも是非参加してみてください。



♡♡ ダルニーが結婚しました

ダルニー奨学金のドナーの方々へ

いつもご支援をありがとうございます。ダルニー・シーラオです。この度、私は結婚いたしました。私の夫はエイクといいます。彼は34歳、タイ南部のスラターニ県出身です。彼はそこでビジネスを行っており、また、ヤシの木も育てています。私と彼が出会ったのは私たちが大学生の頃で、共通の知人から紹介されました。彼はやさしく、とても親しみの持てる、そして家族をととても大切にします人です。4年間、私たちは愛を育み、私が32歳になる今、結婚しようと決意しました。ただ、私はバンコクで働いていて、彼はタイ南部で仕事をしています。なので、今後の仕事や家庭について、私たちはよく話し合いました。結果、私たちは結婚後も離れて暮らすことになりましたが、お互いの仕事を続けることにしました。私は今の仕事が大好きです。支援者の方々の温かい声に支えられ、今の私がいると感じています。これから、仕事と家庭において、さらに責任を持ち、努力をしていきたいと思っております。素晴らしい未来のために。これからもご支援をよろしくお願い致します。



東京・聖蹟桜ヶ丘駅前のショッピングセンター

ご自身が支援していたラオスの奨学生に会いにラオスの村を訪問した際に撮った写真の展示会が各地で開催されています。昨年10月は東京・聖蹟桜ヶ丘駅前のショッピングセンター、11月は新潟市内の「ぎやらり・茶ろん・杜々(とど)」、2月には1周年に際してJR宇都宮駅前のララスクエア宇都宮1階で約2週間にわたって開催されました。

立松和平氏の 写真展を 各地で開催



新潟市内の「ぎやらりい・茶ろん・杜々(とど)」



宇都宮のララスクエアで

監事交代の お知らせ

このたび、野呂昌彦が監事に就任いたしました。前任者同様ご指導のほどよろしくお願い致します。

【略歴】岡山県出身。特殊法人国際交流基金にてニューヨーク事務所長、ケルン日本文化会館館長などを歴任後、(財)国際文化交流協会専務理事に就任。2010年同財団の解散に伴い退職。

設立時より監事としてご活躍いただきました三谷誠一氏は昨年12月逝去いたしました。ここに謹んでご報告いたしますとともに、皆さまからお寄せいただいたご厚情に深くお礼申しあげます。



DARUNEE FRIENDS

ダルニー・フレンズ



あなたの始める活動が、 ラオス・カンボジア・タイの子どもたちの 大きな力になります

ダルニーフレンズは、民際センターの活動に共感いただき、自分たちの身近なところで、自分たちのできる範囲で、楽しく協力活動をするボランティアスタッフの集まりです。

ラオス・カンボジア・タイには、学校に通いつづけることがかなわず、奨学金を待つ子どもが大勢いるにもかかわらず、奨学金の提供口数はこのところ横ばい状態で、決して十分とはいえません。こうした状況下、奨学金を中心とした教育支援を普及する上で、ダルニーフレンズの皆さまの根拠活動は大きな支えとなっています。

DARUNEE FRIENDS 連絡会ユニット(※旧ダルニー連絡会)

地域や企業・団体を基点に活動いただいているユニットです。

DARUNEE FRIENDS 学生ユニット

大学生や専門学校生を中心に活動いただいているユニットです。

DARUNEE FRIENDS ボランティアユニット

事務所やイベントなどでお手伝いいただいているユニットです。

ダルニー・フレンズ ガイドブック

ダルニー・フレンズガイドブックを作成しました。ご希望の方は、資料請求もしくはホームページよりダウンロードしてください。



登録方法から具体的な活動事例まで、
ダルニー・フレンズ活動の虎の巻です

※メールまたはお電話でお問い合わせください。
登録後、ご希望の方に活動資料セットをお送りします。

～ダルニーフレンズの面々、こんな活動をしています～

連絡会ユニット 遠州ダルニー連絡会



世話人の畑寛和さんが毎夏、奨学生に会うためにタイ東北地方を車で横断。帰国後報告会を開催している。また、学校にバレーボールを贈呈するプロジェクトも行っている。

学生ユニット ラオスク(新潟)



新潟県内の学生がラオスに学校を建てることを目的に「ラオスクールプロジェクト」、通称「ラオスク」をスタート。街頭募金、やフリーマーケットなどで資金を集めています。

ボランティアユニット 国政政博さん



1989年に支援者になった国政さんは定年後、事務所内でボランティア活動も始めました。書き損じハガキの整理などのお手伝いをしていただいています。

事務局活用 リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様の
お問い合わせやご要望にお応えしています。ご利用につきましては、
下のとおり必要なものを同封の上ご請求ください。

地域で奨学金を広める活動をしたい

- ① 書き損じはがき・未使用テレカの収集
- ② 使用済みインクカートリッジの収集
- ③ パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④ 不要な本を集めてブックオフに送る
- ⑤ 募金箱を設置したい

①～⑤:80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください。折り返し、該当する資料を送付します。②はポスター、④はホームページからのお申し込み、⑤は申込用紙も同封します。①、⑤はメールでもお問い合わせできます。①については、箱に貼るエコ型はがき・テレカ収集箱作成セットも用意しておりますので、ご希望の方は枚数をお知らせください。

奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ(13分)。パネルを貸し出すこともできます。送料は実費です。

民際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールで担当、関口までお問い合わせください。(本誌P7参照)

毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、自動振込用紙(ゆうちょ銀行)を無料で送付します(タイのみ)。

タイの奨学生に進級進学 のプレゼントをしたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします。申し込み締め切りは4月7日(木)です。

個人でタイを訪問し、 奨学生に会いたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします(3～5月と10月、学校はお休みです)。

奨学金の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

タイの奨学生と文通したい

- ① 手紙の翻訳
- ② タイの切手購入

①:タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。
②:タイ切手セット(12回分1000円)の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。
※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

編集後記:記憶が正確ではないのですが、以前、こんなジョークを本で読んだことがあります。タイタニック号が沈むとき、数少ない救命ボートを男性が占領し、沈みゆく船には女性や子どもが残っています。さて、ボートに乗っている男性諸氏に何と呼びかけたら、席(=命)を譲ってくれるか?もしアメリカ人なら「あなた方は真のヒーローです!」と訴える(アメリカ人は「ヒーロー」という言葉が好きです)。イギリス人なら「本当のジェントルマンの皆さん!」と呼びかける。ロシア人なら「まだ船にウォッカが残っています」。ドイツ人なら「それは規則です」。では、タイ人なら何と呼びかけたらよいでしょうか?仏教の信仰厚く、徳を積むこと(タイ語で「タンブン」と言います)を重んじるので「今こそタンブンするチャンス!来世の幸せは確実です!」。それとも、賭けごとが好きなので「これから船内でスゴイ闘鶏が始まります」。ちなみに、日本人なら「皆さん全員に、そうしていただいております」。(富)



一般財団法人
民際センター

ダルニー通信 第61号 2011年3月1日発行 発行人:秋尾晃正
一般財団法人民際センター 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町518 司ビル301号
TEL: 03-5292-3260 FAX: 03-5292-3510
Eメール: info@minsai.org ホームページ: <http://www.minsai.org/>
振替口座: 00150-0-57664
表紙: タイ